

景気観測(LOBO)

《2021. 7~9月》

令和3年度 第2四半期

日立商工会議所
情報化委員会

I. 調査概要について

(1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2) 調査対象並びに回収状況

業 種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製 造 業	25	23	92.0%
小 売 業	30	22	73.0%
建 設 業	20	17	85.0%
サービス業	25	19	76.0%
計	100	81	81.0%

(3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因 採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

(4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしよNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎LOBOとは「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

◎DI値(景気判断指数)について

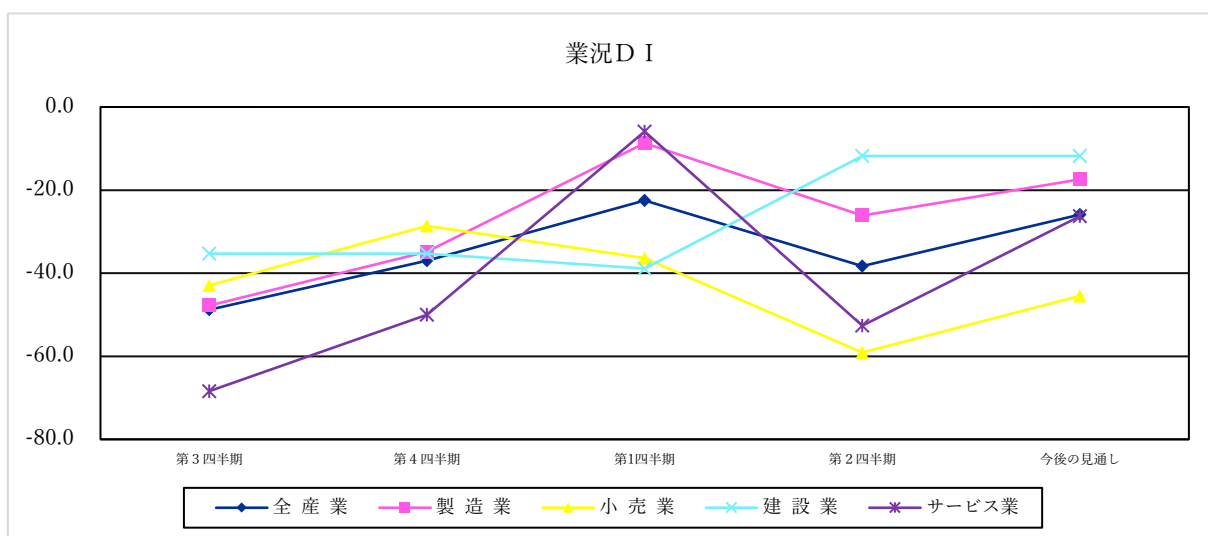
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりを意味する。
- ・ $DI = (\text{増加} \cdot \text{好転} \cdot \text{不足等の回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化} \cdot \text{過剰等の回答割合})$

II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲38.3と前回調査時(▲22.5)より15.8ポイントの悪化。今後の見通しでは▲25.9(前回調査時▲25.0)と0.9ポイントの悪化。
- 製造業では、▲26.1ポイントと前回調査時(▲8.7)より17.4ポイントの悪化。今後の見通しは、▲17.4(前回調査時▲17.4)で横ばい。
- 小売業では、▲59.1と前回調査時(▲36.4)より22.7ポイントの悪化。今後の見通しは▲45.5(前回調査時▲40.9)と4.6ポイントの悪化。
- 建設業では、▲11.8と前回調査時(▲38.9)より27.1ポイントの回復。今後の見通しは▲11.8と前回調査時(▲22.2)より10.4ポイントの回復。
- サービス業では、▲52.6と前回調査時(▲5.9)から46.7ポイント悪化。今後の見通しは▲26.3と前回調査時(▲17.6)より8.7ポイント悪化。

(1)業況DIの推移とキーワード

	令和2年度		令和3年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 48.8	▲ 37.0	▲ 22.5	▲ 38.3	▲ 25.9
製造業	▲ 47.8	▲ 34.8	▲ 8.7	▲ 26.1	▲ 17.4
小売業	▲ 42.9	▲ 28.6	▲ 36.4	▲ 59.1	▲ 45.5
建設業	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 38.9	▲ 11.8	▲ 11.8
サービス業	▲ 68.4	▲ 50.0	▲ 5.9	▲ 52.6	▲ 26.3



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	部品入荷遅延	半導体不足	恒大
小売業	仕入価格上昇	外出自粛	最低賃金アップ
建設業	資材入荷遅延	ウッドショック	リフォーム工事
サービス業	緊急事態宣言	来店サイクル	ワクチン接種

《全国との比較》

	令和3年度第2四半期		今後の見通し(10月~12月)	
	全国(9月)	日立	全国	日立
全産業	▲33.2	▲38.3	▲31.0	▲25.9
製造業	▲18.1	▲26.1	▲18.1	▲17.4
小売業	▲48.0	▲59.1	▲48.0	▲45.5
建設業	▲18.7	▲11.8	▲18.7	▲11.8
サービス業	▲43.8	▲52.6	▲43.8	▲26.3

(2)売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移(DI値)

(売上高)

	令和2年度		令和3年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 47.5	▲ 27.2	▲ 15.0	▲ 38.3	▲ 25.9
製造業	▲ 47.8	▲ 8.7	▲ 4.4	▲ 13.1	▲ 17.4
小売業	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 13.6	▲ 54.6	▲ 50.0
建設業	▲ 35.3	▲ 23.5	▲ 27.8	▲ 47.1	▲ 17.7
サービス業	▲ 73.7	▲ 45.0	▲ 17.7	▲ 42.1	▲ 15.8

(採算)

	令和2年度		令和3年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 51.3	▲ 34.6	▲ 26.3	▲ 48.2	▲ 28.4
製造業	▲ 56.5	▲ 34.8	▲ 21.7	▲ 21.7	▲ 17.4
小売業	▲ 28.6	▲ 38.1	▲ 31.8	▲ 68.2	▲ 50.0
建設業	▲ 41.2	▲ 17.7	▲ 33.3	▲ 58.8	▲ 35.3
サービス業	▲ 78.9	▲ 45.0	▲ 17.7	▲ 47.4	▲ 10.5

(仕入単価)

	令和2年度		令和3年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 20.0	▲ 43.2	▲ 46.3	▲ 50.6	▲ 43.2
製造業	▲ 26.1	▲ 52.2	▲ 43.5	▲ 43.5	▲ 21.7
小売業	▲ 19.1	▲ 47.6	▲ 40.9	▲ 54.5	▲ 54.5
建設業	▲ 29.4	▲ 41.2	▲ 55.6	▲ 64.7	▲ 70.6
サービス業	▲ 5.3	▲ 30.0	▲ 47.1	▲ 42.1	▲ 31.6

(販売単価)

	令和2年度		令和3年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 13.8	▲ 2.5	2.5	▲ 1.2	7.4
製造業	▲ 4.4	8.7	13.0	8.7	▲ 4.4
小売業	▲ 19.0	0.0	▲ 9.1	0.0	0.0
建設業	5.9	▲ 11.8	0.0	5.9	23.5
サービス業	▲ 36.8	▲ 10.0	5.9	▲ 21.1	▲ 10.5

(従業員数)

	令和2年度		令和3年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	8.8	4.9	2.5	2.5	7.4
製造業	▲ 13.1	▲ 4.3	▲ 8.7	▲ 4.4	4.4
小売業	19.0	14.3	9.1	▲ 4.5	▲ 9.1
建設業	29.4	5.9	22.2	5.9	17.6
サービス業	5.3	5.0	▲ 11.8	15.8	21.1

(資金繰り)

	令和2年度		令和3年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 32.5	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 24.7	▲ 23.5
製造業	▲ 30.5	▲ 13.1	▲ 21.7	▲ 13.0	▲ 13.0
小売業	▲ 23.8	▲ 42.9	▲ 31.8	▲ 40.9	▲ 40.9
建設業	▲ 23.5	0.0	▲ 22.2	▲ 11.8	▲ 11.8
サービス業	▲ 52.6	▲ 30.0	▲ 17.6	▲ 31.6	▲ 26.3

(3)業種別概況

業種	概況
製造業	<p>業況感は回復基調から一転、悪化。建設機械、EV自動車産業が堅調ではあるものの、原材料費の高騰が継続、電子部品、鋼材、半導体、材料不足の声も。全国的にも鉄鋼などの原材料価格上昇からの収益圧迫の影響が続き、悪化。</p> <p>個別では「EV関係好調(輸送用機械器具製造業)」「鉄道関連の上期は、対前年比110%で推移しているが、コロナの影響により下期案件が2022年度にズレ込むことで、下期は多少の苦戦となる模様。都市開発関連では、中国『恒大』問題により、ビル市場に不安が走る(電気機器製造業)」「コロナ禍によるインフラ関連投資の縮小等により、顧客からの発注量が減少している(電気機械器具製造業)」「重電業界が低調のままですが、建設機械が増産になっているので、何とか作業量を確保している(電気機械器具製造業)」「カーメーカーなどの減産でスクラップ発生が減少、それによってスクラップ価格が極端に上昇。品不足で生産ストップもあり得る。販売単価が追いついていかない(金属製品製造業)」「半導体不足による生産調整が続いている。鋼材費値上げによる価格転嫁が難しい(機械加工業)」「通年レベルの売上があるが、先を予測しづらく設備投資など思い切ったことができない(金属製品製造業)」などの報告があった。</p>

小 売 業	<p>緊急事態宣言期間を含む今期、業況感、売上高、採算は大幅に悪化。さらに、商品入荷の遅れ、仕入価格上昇の報告多数の一方で、商品単価に転嫁できたのは2割程度に留まる。また仕入では、商品によって、納期が未定のものもあるとの報告。今後の学校や部活動、イベントの再開に期待を寄せる声も。</p> <p>個別では「農作物の価格が変化することに不安感はないが、砂糖・小麦粉等の国際価格の影響によりいろいろなものが値上がりする。うまく販売単価に乗せられなければ収益の悪化は避けられない。最低賃金の上昇も懸念材料。資金に関しては融資制度が使いやすい今、やりくりは楽である(食品製造小売業)」「まだまだコロナ禍の影響が続くと思われる。また最低賃金改定、材料値上がりによる商品値上げが必要だが、買うのを渋るお客様がでるので、どう価格に転嫁していくかが課題。売上を落としても利益を上げられる頭に切り替える必要がある(菓子製造小売業)」「シュリンク(収縮)した買い物意欲が戻るかどうか。日立市全体の景気が悪すぎる(菓子製造業)」「原油価格の上昇により、仕入れ価格が上昇。収益を圧迫する(燃料小売業)」などの報告があった。</p>
建 設 業	<p>業況感は大幅な回復となったが、売上と採算が悪化。ウッドショックをはじめ建築資材や部品の価格上昇および入荷遅延の報告多数。また、大型の民間工事の減少報告とともに、リフォーム等小規模工事の増加の報告。下請け工事店の減少や人材不足を指摘した声も。全国の業種別動向では、防災・減災の公共工事、住宅の民間工事の持ち直しにより、唯一建設業のみ改善。</p> <p>個別では、「大型民間工事の減少(総合建設業)」「コロナ禍の影響で、海外からの部品の納入が滞っており、それによって資機材(商品)が納期どおりに納入されないため、現場で同等品の代用や、工期延期が生じてきている(総合建設業)」「公共土木工事(国、県、市町村すべて)が上期の最盛期を迎えている。民間建築工事は、大手ゼネコンを交えての競争物件が多く、受注単価が厳しい。緊急事態宣言解除後の、民間工事の発注に期待している(総合建設業)」「公共・民間とも発注件数が減少している(総合建設業)」などの報告があった。</p>
サービス業	<p>今期業況感は大幅な悪化。緊急事態宣言による人流・物流量の減少、業種によっては納品の遅れ、仕入価格の上昇と、厳しい状況が続く。原油価格、軽油価格の先行き不透明感への懸念の声も。次期見通しでは、緊急事態宣言の解除、イベント、催事、学校行事等の再開による回復を見込む。</p> <p>個別では、「半導体不足による自動車業界の生産減少の影響により、物流業界も自動車関連工場の出荷減の影響が出ている。年末に向けて消費財の出荷が増える傾向にあり、取扱貨物の増加を期待。交通業については、コロナウイルスの感染拡大の影響から未だ厳しい状況が継続。回復の兆しが全く見えない状況。(物流業)」「トラック運賃の値上げ難。運転手不足。燃料・車輦代の上昇。経営が厳しい(物流業)」「30・40代でフェードカット(極端に短い刈り上げ)が流行り、来店サイクルが早くなった。(理容業)」「バス売上高(特に高速・貸切)は、回復できていない。Go Toトラベル事業再開への効果に期待(道路旅客運送業)」「行政によるワクチン接種会場へのタクシー料金助成にとっても感謝しております。(一般乗用旅客自動車運送業)」等の報告があった。</p>